給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容
指数の状況	対国家公務員　118.9 参考 地域勘案　130.5 学歴勘案　115.2 地域・学歴勘案　129.5
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	1. 本機構は、大学院大学の設置準備を主たる目的とし、大学院大学が設置された時には解散することとされている過渡的な組織であることから、組織のスリム化を図るため、平成17年の設置以来、任期付職員（年俸制）及び派遣職員（※1）の活用に努めてきたところであり、国家公務員等との給与水準の比較指標の算定対象となる定年制職員（月給制）については、事務・技術職員の21.8%に抑制し、基幹となる職員を中心に充ててきた。 ※1：国家公務員等との給与水準の比較指標の算定対象とならない。 このため、定年制職員に占める管理職（役職者）の割合が、国家公務員における同割合を大きく上回っており（本機構の定年制職員に占める管理職の割合：50.0%（国家公務員の同割合：16.6%（※2））、指数が高くなる傾向にある。 ※2：行政職俸給表(一)の適用を受ける職員において、俸給の特別調整額が支給される者の割合（平成22年国家公務員給与等実態調査） 仮に、任期付職員を含めた事務・技術職員全体の対国家公務員指数（年齢勘案）を算定すると、104.3となる。これは概ね国家公務員と同水準であり、こちらの指数の方が機構の給与水準をより適切に示しているものと考えられる。 2. また、本機構は、主任研究者の半数以上を外国人が占めるなど、高度に国際的な環境の下で、平成24年度の大学院大学の開学に向けて着実に業務を遂行する体制を早期に整えることが求められてきた。このため、事務職員の採用に当たっては、民間企業等に勤務する実務経験があり、英語能力や国際的水準の専門能力を有する即戦力となる職員を中心に採用を行い、能力主義の下、年齢にとらわれず配置してきた。こうした職員を採用するためには、一定水準の雇用条件を提示することが必要である。 （参考）職員の専門性・英語能力等について 対国家公務員指数の算定対象となった定年制の事務・技術職員（22人）のうち、 ・大卒以上20人（うち博士3人、修士6人）、一級建築士1人 ・英語能力　ネイティブレベル3人、ビジネスレベル15人 3. なお、定年制職員の給与水準の抑制に努めた結果、指標は徐々に低下してきたところである。 （参考）機構における対国家公務員指数（年齢勘案）の推移 平成18年度：145.3，平成19年度：132.7，平成20年度：132.7，平成21年度：122.8 【主務大臣による検証】 機構発足以降、早期に体制を整備する必要があったため、民間企業での実務経験や英語能力がある等、即戦力となる基幹職員（管理職員）を先行的に定年制職員として採用してきたことや、総人件費を抑制するため任期付職員等の活用に努めてきたこと等が原因となり、機構の対国家公務員指数は高くなっていたが、平成24年度の開学に向けた準備が進む中、従来の基幹職員（管理職員）中心の採用に加え、計画的に中堅・若年層の充実を図ってきた結果、対国家公務員指数は着実に低下してきている。 今後、沖縄において世界最高水準の教育研究を行うという大学院大学の目的を実現するための組織にふさわしい組織・給与体制を整備する必要があるが、引き続き給与水準の適正化に努めることが必要である。

給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　99.4% （国からの財政支出額　15,907百万円、支出予算の総額　15,996百万円：平成22年度予算） 【検証結果】 給与水準は国家公務員の水準を上回っているが、業務拡大による人員増の中、給与水準の 【累積欠損額について】 累積欠損額0円（平成21年度決算） 【検証結果】 該当なし
講ずる措置	対国家公務員指数は相対的なものであり、また職員の過半を占めている研究職員を除く事務・技術職員数でみると小規模である当法人は人事異動の影響を大きく受けるため、定年制職員について来年度に見込まれる数値を具体的に予測することは困難であるが、本年4月の在籍職員（任期付職員を含めた事務・技術職員）について試算すると、平成23年度の指数は108.3（年齢勘案）となるものと見込まれる。今後、以下の取組により、給与水準の適正化及び総人件費の抑制に努めることにより、任期付職員を含めた事務・技術職員の給与の指数が平成23年度においても引き続き、概ね国家公務員と同水準となることを目指す。 ①俸給表の見直し：平成22年度から5年間で計5.5%の給与水準の引下げを行うこととしており、平成22年度及び23年度においては、それぞれ1.1%の引下げを行った。 ②人事評価制度の的確な実施：平成22年度に導入した人事評価制度を的確に実施し、能率・勤務成績が給与に適切に反映されるようにする。 ③ERP（統合業務システム）の導入等による業務運営の効率化等に努める。 ④管理職・非管理職及び定年制・任期付職員のバランスの取れた採用：これまでに基幹職員の採用をほぼ終えたことを踏まえ、今後は恒久的な組織にふさわしいバランスの取れた採用に努めていく。 【参考】①支出総額に占める給与、報酬等の支給総額の割合：12.4%、管理職の割合：50.0%（22人中11人）、大卒者以上の高学歴者の割合：91%

シーサイドハウス施設について

開催日	期間(日数)	参加者数	シーサイドハウス宿泊者数	シーサイドハウスのべ宿泊者数	イベント名
OIST主催					
2010年5月24日-6月4日	12	65名	33	427	国際ワークショップ 「定量的進化的比較ゲノミクス」
2010年6月14日-7月1日	18	53名	35	660	国際サマースクール 「沖縄計算神経科学コース2010」
2010年7月12日-22日	11	59名	32	365	国際ワークショップ 「発生神経生物学コース」
2010年10月3日-6日	4	29名	23	98	国際ワークショップ 「発生神経生物学コース」
2010年10月6日-7日	2	56名	0	0	国際ワークショップ 「沖縄における知的・産業クラスターの形成を目指して」※宿泊なし
2010年12月1日-3日	3	25名	0	0	国際ワークショップ 「計算生態学ワークショップ」※宿泊なし
2010年12月6日-11日	6	50名	29	186	国際ウィンタースクール 「生物複雑系の進化コース2010」
2011年2月23日-26日	4	25名	13	63	国際ワークショップ 「ガルーダ・フォー」
2011年3月15日-17日	3	19名	19	74	「Sun, Sea, Science & Student Workshop (4S workshop)」
2011年3月29日	1	30名	0	0	「OISTサイエンス・フィルムショー」 ※一般対象
OIST協賛					
2010年8月7日-8日	2	10名	0	0	協賛ワークショップ 「人工知能国際会議評議会」※宿泊なし
2010年11月4日	1	35名	0	0	協賛ワークショップ 「平成22年度第2回身体性情報学研究会」※宿泊なし
2010年11月5日-7日	3	80名	34	68	協賛ワークショップ 「JSTさきがけ脳情報：第5回領域会議」
2010年11月15日-17日	3	70名	10	35	協賛ワークショップ 「原子核の新しい顔」 ※会場はキャンパスにつき、SH利用は宿泊のみ
2011年3月3日-5日	3	70名	31	93	協賛ワークショップ 「第3回日独ジョイントワークショップ計算論的神経科学」
合計	76	676	259	2,069	

主なOIST実物資産一覧（平成22年度、23年度）

資産名称	所有／借用	所在地	面積(㎡)	用途	利用状況	今後の利用計画
キャンパス　センター棟＆第1研究棟	所有	恩納村字谷茶	26,834	研究室、事務室、セミナールーム、会議室	研究室、事務室等として、ほぼ全ての施設が稼働	現行どおり継続して利用
シーサイドハウス	所有	恩納村字恩納	3,056	研究室、事務室、セミナールーム、会議室、宿舎	・2ユニット(トリップ、デシュッター) ・国際ワークショップ開催実績(平成22年度) ・OIST主催9回、協賛5回 ・参加者数計676名 ・宿泊者数259名(延べ宿泊数2,069泊)	・国際ワークショップ等の会場として、現行どおり継続して利用 ・旧事務室スペースについて、研究ユニット(ドライ系)用の研究室に転用することを想定したレイアウト検討を行った。今後、新規採用の主任研究者に対してヒアリングを行い、詳細を含めた設計を行う。
シーサイドファカルティー宿舎（8棟）	所有	恩納村字恩納	65～179	宿舎	・長期滞在用宿舎7棟入居中。 ・短期滞在用宿舎1棟(稼働率54%)	・継続して利用 ・長期滞在用、短期滞在用の比率等については、ビレッジゾーン(教員向け宿舎)の整備に併せて、改めて検討する予定。
沖縄科学技術研究・交流センター	借用	うるま市州崎	2,746	研究室、事務室、会議室等	・1ユニット(佐藤)及びテクノロジーセンター ・事務部門一部 ・平成22年度にキャンパスに移転したユニット ・4月：4ユニット(銅谷、ウィケンス、シュティーフェル、柳田) ・6月：2ユニット(佐藤、ミケェエブ) ・12月：1ユニット(ミラー)	現時点において、新規採用の教員予定者の中に当該施設への入居を予定することとなった者はいないが、引き続き、新規採用の教員予定者の着任時期、研究内容及び計画、キャンパスにおける研究棟(第2研究棟、第3研究棟)の整備スケジュール等を踏まえ検討を行い、今後の継続利用の要否について、年内を目途に一定の結論を得る。
沖縄県工業技術センター(別館等)	借用	うるま市州崎	960	研究室、会議室、駐車場	・平成23年3月、1ユニット(政井)がキャンパスに移転 ・実験・研究機器整理中	現時点において、新規採用の教員予定者の中に当該施設への入居を予定することとなった者はいないが、引き続き、新規採用の教員予定者の着任時期、研究内容及び計画、キャンパスにおける研究棟(第2研究棟、第3研究棟)の整備スケジュール等を踏まえ検討を行い、今後の継続利用の要否について、年内を目途に一定の結論を得る。
沖縄健康バイオテクノロジー研究センター	借用	うるま市州崎	212	研究室	DNAシーケンシング課スタッフが常駐し、シーケンサーを運用・管理	当面、DNAシーケンシングセンターとして継続利用 (今後はDNAシーケンシングに関する研究者のニーズや研究の効率性等を踏まえて検討)
プリンスブラージュ（4室）	借用	恩納村字冨着	30～38/室	短期滞在者用宿舎	短期滞在(平均17.6泊/月)	ビレッジゾーン供用開始までの間、当面の間、継続利用
クリエーションコア京都	借用	京都市上京区	130	研究室	田中ユニットが利用（平成23年6月～）	第2研究棟供用開始までの間、使用
日立製作所中央研究所	借用	埼玉県鳩山町	56	研究員居室	外村ユニットが利用(理化学研究所との共同研究)	現行どおり継続して利用

当機構では、上記の実物資産に加え、役職員用に17棟の住宅を借上げている。

平成22年度以降、借用を終了した実物資産

資産名称	所有／借用	所在地	面積(㎡)	用途	利用状況	契約終了の理由
沖縄県工業技術センター(別館等)	借用	うるま市州崎	1,695	研究室、駐車場	平成22年3月、5ユニット(丸山、シンクレア、サマテ、ブライス、高橋)がキャンパスに移転	キャンパスへの移転完了に伴い返却(平成22年4月)
沖縄健康バイオテクノロジー研究センター	借用	うるま市州崎	570	研究室、会議室、研修室、書庫	平成22年4月：1ユニット(アーバスノット)がキャンパスに移転	キャンパスへの移転完了に伴い返却(平成22年5月)
トロピカル・テクノ・センター	借用	うるま市州崎	260	研究室、セミナールーム	平成22年4月：1ユニット(イェンケコダマ)がキャンパスに移転	キャンパスへの移転完了に伴い返却(平成22年5月)
コーポしおや(2室)	借用	うるま市字塩屋	45/室	短期滞在者用宿舎	短期滞在(平均16.5泊/月)	短期出張者、赴任者用として利用していたが、恩納キャンパスがメインキャンパスとなったことに伴い、順次、契約を終了した。(平成23年5月、6月)

平成22年度講演及びイベント実績

<添付資料#46-1>

（講演）

No	プログラム	日付	場所	主催	内容	講演者	備考
1	OIST講演会	2010/6/14	沖縄県立石川高等学校	OIST	講演会「生物のゲノム解読をとおして学んだこと」	佐藤矩行代表研究者	600名
2	OIST講演会	2010/7/10	沖縄都ホテル	沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議	講演会「クリエイティブサイエンス～最高の研究をめざして～」	OIST運営委員会委員　ティム・ハント博士	147名
3	OIST講演会	2010/7/10	沖縄県立那覇国際高等高学校	OIST	講演会「ノーベル生理学・医学賞受賞への道」	OIST運営委員会委員　ティム・ハント博士	118名
4	2010アジア青年の家オープンセミナー講演会	2010/8/21	恩納村ホテルゆめ舎リゾート	内閣府	研究紹介	佐藤矩行代表研究者	75名
5	第38回全国理数科教育研究大会記念講演会	2010/10/7	パシフィックホテル沖縄	全国理数科高等学校長会	講演会「からだで憶える」の脳科学	銅谷賢治代表研究者	
6	サイエンスアゴラ2010	2010/11/20	東京国際交流会館	独立行政法人科学技術振興機構（JST）	ワークショップ「一緒に考えよう！日本の未来戦略」	銅谷賢治代表研究者	
7	OIST講演会	2010/12/6	恩納村立山田中学校	恩納村村興し協議会	研究紹介	ゴードン・アーバスノット代表研究者	67名
8	OIST講演会	2010/12/8	恩納村立恩納中学校	恩納村村興し協議会	研究紹介	ベアン・クーン代表研究者	117名
9	沖縄産学官イノベーションフォーラム	2010/12/17	沖縄県工業技術センター	沖縄産学官連携推進協議会	研究成果発表	ウルフ・スコグランド代表研究者 神経統合の形成と制御研究ユニット横倉隆和研究員	
10	OIST講演会	2010/12/21	OIST恩納キャンパス	恩納村村興し協議会	研究紹介	ウルフ・スコグランド代表研究者	94名(仲泊中学校)
11	沖縄生物資源の活用促進に向けた研究基盤の構築シンポジウム	2011/1/7	沖縄産業支援センター	財団法人沖縄科学技術振興センター	研究成果発表「遺伝子機能の解明に向けたゲノム科学研究」	佐藤矩行代表研究者	
12	OIST講演会	2011/1/26	恩納村立安富祖中学校	恩納村村興し協議会	研究紹介	アレクサンター・ミケェエブ代表研究者	66名 （安富祖中学校、喜瀬武原中学校合同開催）
13	動物の不思議な能力～ゲノムからの挑戦フォーラム	2011/1/29	沖縄産業支援センター	OIST	研究成果発表「動物がつくるセルロース」	マリンゲノミックスユニット中島啓介研究員	90名
14	OIST講演会	2011/1/30	南城市大里農村環境改善センター	沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議	科学実験教室「科学者のお仕事を体験してみよう！」	ホルガー・イェンケコダマ若手代表研究者	約100名
15	沖縄県経営者協会講演会	2011/2/8	ザ・ナハテラス	社団法人沖縄県経営者協会	講演会「日本の教育と科学・技術」	OIST運営委員会共同議長　有馬朗人博士	沖縄県経営者協会会員110名
16	「ノーベル賞受賞者とのサイエンストーク」 ～科学者と気軽に語り合おう～	2011/2/11	OIST恩納キャンパス	OIST	トーステン・ヴィーゼル博士と県内高校生による意見交換会	OIST運営委員会共同議長　トーステン・ヴィーゼル博士	沖縄県内高校生12名

（イベント）

No	プログラム	日付	場所	主催	内容	講演者	備考
1	うんな祭り	2010/7/24-25	恩納村コミュニティセンター	恩納村	OISTの概要紹介ポスター展示、ビデオ上映、研究員による科学実験	OIST研究スタッフ、事務スタッフ	
2	恩納村／OISTこどもかがく教室	2010/8/16-20	谷茶公民館	OIST/恩納村/恩納村むら興し協議会	小学1年生～4年生までを対象にした科学教室	OIST PI 佐藤矩行博士、メリー・アン・プライス博士、他研究スタッフ	参加児童39名
3	第34回沖縄の産業まつり	2010/10/22-24	沖縄県立武道館	沖縄の産業まつり実行委員会	OISTの概要紹介ポスター展示、ビデオ上映		
4	OIST OPEN CAMPUS 2010	2010/11/28	OIST恩納キャンパス	OIST、沖縄県、恩納村	PIによる講演、実験デモンストレーション、パネル展示、ラボツアー		全体来場者 2,130名
5	谷茶区民訪問プログラム	2011/2/27	OIST恩納キャンパス	OIST	OIST概要説明・キャンパスツアー		約60名
6	OISTサイエンスフィルムショー	2011/3/29	OISTシーサイドハウス	OIST	映画「レナードの朝」上映、OISTスタッフとの意見交換会	OIST　コモンリソースグループ 統括山田真久　博士	30名